

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	入所中の利用者が入所期間の長期化に伴い高齢化していることから、ADLなどの低下が進み車椅子での移動や見守り歩行の必要性が増えてきたことから、利用者全員での外出機会などが減ってきている。	ADLの低下がある場合でも安全に移動できる環境を整備して、今まで通りに外出できるようにしていく。	安全にホーム外(道路や施設)の移動ができるように車椅子やシルバーカーなどを設置していく。また外出や外食時には職員の配置も増員し安全に移動できるようにしていく。	3ヶ月
2	12・36	入所中の利用者が入所期間の長期化に伴い高齢化していることから、ADLなどの低下や認知症の進行に伴い、提供するサービスがそれぞれ多様化していくことから職員が業務に追われることになり、利用者個々と落ち着いて会話できる時間が少なくなっている。	職員勤務体制を改善し、利用者とのゆとりと会話できる体制、環境を整備していく。	職員の増員や勤務時間の短縮することにより、職員のストレスを改善して効率的に業務遂行できるような体制作りをしていく。(平成27年2月より職員勤務体制の変更を実施。1勤務時間を基本的に5時間以内、週労25時間以内を実施する。)	3ヶ月
3	26	6カ月毎に作成するサービス計画書のサービス計画書1の【本人の意向】欄について、日常生活の中から様々な希望や思いを聞き入れていたが、サービス計画書への反映ができていなかった。	サービス計画書1の【利用者及び家族の生活に対する意向】を活用し、時間の経過と共に変化するかもしれない思いや意向をサービス計画書作成時に記載していく。	サービス計画書作成時に日頃から聞き取りしている利用者や家族の意向や思いをサービス計画書に反映させ、職員がその思いや意向を共有して、より一層に利用者寄り添ったケアを実現していく。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。